

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

小浜市立小浜小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

学 校：校長・教頭・教務主任（3名）
学校評議員：PTA会長・PTA副会長・小浜
公民館長・民生委員協議会長・浜っ子こど
も園長・地域会社経営者（6名）
※地域コーディネーター（4名）
小浜公民館長（1名）
現PTAA会長（1名）
元PTA会長（1名）
若狭小浜売り込み隊KISUMOメンバー（1名）

(2) 協議会の内容

※開催回数 3回
※開催日程 5月23日(木)15:30～
10月19日(土)15:30～
2月20日(木)15:40～
※協議内容
第1回…今年度の学校経営方針、組織およ
び活動計画
第2回…授業参観、PTA学習委員会主催
の講演会参加予定
第3回…今年度の学校教育についての評
価、今年度の活動の成果と課題

(3) 協議会における成果と課題

地域社会に開かれた教育課程の実現に向けて、本年度から新たに『おばマナビin旭座』を開催した。本校校区に「旭座」という明治時代の芝居小屋を復元した施設がある。昨年度までは、この施設を舞台に各学年が学習発表会を行ってきた。その中で、全校一斉に行えるほどの施設規模ではないこと、学習成果を寸劇等にした保護者への一方向発表となっていたこと等の課題を協議会でも共有した。そこで、本年度からは、「家庭・地域と学校が顔の見える関係性を築くこと、地域と共に学校の学びを創ること」を目的に、年度初めに地域コーディネーターと共にカリキュラムデザインを行った。学年ごとに旭座活用の学習の場を効果的な機会として計画し、その内容も覚えた台詞を発表するような学芸会的な色合いを薄くし、「ワークショップ型」「テーマブース型」のような学びが交流できる場にリニューアルすることができた。

この取組は、小浜地区のまちづくり協議会にも共催が得られ案内チラシを地区全戸に配布していただくことができた。そのおかげで、保護者のみならず、地域の方の参加が増え、学校の教育課程の一端を知っていただくことにつながった。



2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 「ふるさと小浜」を調べる活動を通して、ふるさとの課題を知り、児童自らが課題解決に向けて主体的に考え、行動する中で、ふるさとについての誇りや愛着心を育て、ふるさとに貢献する喜びを味わい、次代を担う地域の一員としての自覚を高める。

(2) 活動の実際

① ふるさと小浜の魅力を伝えよう（6年生）

ふるさとへの誇りや愛着心を育むため、これまでのふるさと小浜についての学習に積み上げ、歴史、自然、食の魅力等について新たな視点で小浜の魅力を再発見する体験的な活動を

展開した。その後、再発見した魅力を発信する方策や小浜の活性化に向けたアイデアを考え、まとめて、修学旅行先の京都の大学生らに発表したり、まちの駅「旭座」で地域へ発信したりした。体験的な活動内容にコーディネーターからアドバイスをもらうことができた。

② 鯖のよさを生かしたまちづくりを考えよう（5年生）

小浜のブランド鯖である「よっばらい鯖」の普及が進んでいることから、原点となる鯖についての調べ学習を進めた。地元の缶詰工場や栽培漁業センター等へ出向き、施設を見学したり、話を聞いたりした。また、「よっばらい鯖」の養殖地である田島地区を訪問し、育て方や発酵食品作りについて話を聞いたりした。これらの経験や体験を通して、鯖のよさを生かしたまちづくりについて考えることができた。



③ 小浜の名水（湧水）について（4年生）

社会科「くらしを支える水」と関連させて「小浜の地下水・湧水」について学習を進めた。県立大学の先生の話や利き水体験をして基礎的な学習をした後、市役所の方や地域コーディネーターの方と小浜市内のフィールドワークを行い、津島名水や雲城水などの水量を測る実験などを通して湧水についての理解を深めた。遠敷川や下根来の水源地などを巡るバスツアーなども行い、水の循環についてもダイナミックに学習することができた。地域・保護者との学習交流会を通して学んだことをまとめ、地域の方に水について伝えるために劇やクイズをするなど表現を工夫することができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・各学年担任が行うカリキュラムマネジメントに助言
- ・家庭・地域・学校協議会に参加し、学校経営方針および本事業における活動目的を共有
- ・ふるさと調査活動の教員、児童へのアドバイザーおよび活動協力者との連絡・調整
- ・活動の中間発表会への参加および児童への講評

（4）特に工夫した事項

- ・年度初めに地域コーディネーターの方と各学年担任らでカリキュラムマネジメントを行う会議を持ち、「ねらい」「活動内容の留意事項」などを共有しながら取り組めるようにした。また、年度終わりには、地域コーディネーターの方と一年間の活動について担任らと共に振り返りを行い、次年度活動計画に生かすための時間を設定した。
- ・従来、保護者対象の「学習発表会」としていたものを今年度から「おばマナビ～地域・保護者参加型学習交流会」とし、子どもたちの学びを地域と共に創造できるように計画した。

（5）成果と課題

- ・できるだけたくさんの方の名所・名産に触れることを目的としたが、活動の意図の意識付けが不十分であった。しかし、旭座での発表・交流の中で、自分たちの活動が評価され、これまでに以上に達成感と次への意欲がわいてきた様子であった。
- ・地域コーディネーターにつないでいただいた団体の方の協力のおかげで、より専門的な活動になったり、より安全な活動になったりと活動が充実した。
- ・小浜のブランド鯖の養殖の様子や加工食品の製造法等に直接触れることで、地域に対する理解が深まるとともに、鯖のよさを生かしたまちづくりについて考えるきっかけとなった。鯖のよさを生かしたまちづくりについての提言をどう発信していくのが課題である。